



# TICAD8 SIDE-EVENT

母子健康手帳と情報のデジタル化：アフリカの母子に対する恩恵と公衆衛生への貢献

## 背景

母子健康手帳は日本で始まり、アフリカをはじめとする途上国にも広がりまっている。母子の健康状態や子どもの成長を記録するという点で、その恩恵は非常に大きいものである一方、紙面による運用であるがために、公衆衛生、そして集団として母子に対するサービスの向上に十分活かされていない。デジタル化が進む昨今、スマートフォン等を使って母子の健康を集団として把握し、悉皆的に（誰一人取り残さないように）多くの母子のためになるシステムを構築することが望まれる。そのためには、母子健康手帳や母子登録に関わるすべての関係者が共通認識を持ち、個々の母子と集団としての母子の双方にメリットをもたらす仕組みを考案する必要がある。それは、母子健康手帳が現在の位置づけに加えて、公衆衛生的な役割を果たせるようなシステムでなければならず、母子保健の計画や施策の企画・評価などに活用される方にすべきである。異なる仕組みが乱立することを避けるためにも、開発情報を共有するプラットフォームを構築し、開発者、ユーザー、行政、医療関係者などが開発に参加できる体制を整えることが必要である。また、個人情報も多く含まれることから、個人情報の保護も必要である。TICAD8 開催を受け、母子健康手帳を世界に広める日本として、率先して世界の関係者を束ねる責務があることから、上記提案を次の段階に進めるための情報共有と意見集約の場としてのサイドイベントを今回開催することとした。

## コアメッセージ

母子健康手帳、母子登録のデジタル化を視野に入れ、関係者の技術、知識、経験を集約し、個々と集団としての母子の利益を最大化すること。

## 目標

1. 母子健康手帳と母子登録のデジタル化について、開発者、利用者が議論できるプラットフォームを構築すること。
2. 母子健康手帳と母子登録のデジタル化に関するその後の行動を決定すること。
3. 母子健康手帳と母子登録のデジタル化に関する開発・活用を加速すること。

## 期待される効果

1. 母子健康手帳、母子登録システムの効率的な開発と活用に関する理解が深まる。
2. デジタル化された母子健康手帳を利用できず、紙面の手帳を使用する母子も含め、すべての母子がそれらのデジタル化による恩恵を受ける事ができる。
3. 国や地域レベルでの母子保健のサービスが向上する。
4. 母子保健に関連するドナー支援の効率化が図られ、母子に対するサービスが改善される。

# プログラム

## 祝 辞

- Prof. Miriam K. Were (第1回野口英世アフリカ賞受賞者)
- 武見敬三先生 (参議院議員)
- 井本佐智子氏 (JICA理事)

## 開会の辞

- 中村安秀教授 (公益社団法人 日本 WHO 協会)

## パネリストグループ発表

ファシリテーター: 仲佐かおひ氏 (認定 NPO 法人ロシナンテス)

- パネリストグループ A (カメルーンからの発表)  
Dr. Mbambole Grâce Alake (カメルーン共和国 公衆衛生局予防接種担当副局長・家族健康局長)
- パネリストグループ B (ケニアからの発表)  
幸田芳紀氏 (日本電気株式会社/長崎大学)、Dr. Samson Nzou Muuo (ケニア中央医学研究所)、宮道一千代 (長崎大学熱帯医学研究所)
- パネリストグループ C (スーダンからの発表)  
Prof. Ahmed S. A. Elsayed (スーダン・Alzaiem Alazhari 大学)、その他 (予定)
- パネリストグループ D (ガーナからの発表)  
Dr. Patrick Kuma-Aboagye (ガーナ共和国保健局 局長)、萩原明子氏 (JICA ガーナプロジェクト専門員)

## パネルディスカッション

## まとめ

## 閉会の辞

- 川原尚行教授 (認定 NPO 法人ロシナンテス理事長 / 長崎大学客員教授)

**日 時** : 令和4年9月15日 17:30~19:15 (日本時間)

**場 所** : オンライン

### 【主 催】

国立大学法人長崎大学、認定 NPO 法人ロシナンテス、公益社団法人 日本 WHO 協会

### 【後 援】

内閣府、外務省、厚生労働省、デジタル庁、JICA、公益財団法人 風に立つライオン基金

### 【使用言語】

英語 (日本語同時通訳あり)

### 【事務局】

長崎大学熱帯医学研究所 (副所長: 金子 聡)

